

呼吸器感染症患者に対する Carumonam の使用経験

板阪和雅・横崎恭之・横田幸弘・野村俊也・上綱昭光・山木戸道郎

広島大学医学部第2内科

Carumonam をび慢性汎細気管支炎 (2例), 肺炎 (1例), 肺化膿症 (1例), および慢性気管支炎 (1例) に投与し, 有効性および安全性について検討した。

難治な呼吸器感染症にも有効で, 有効率は 80.0% であった。

副作用として血小板の中等度減少が 1例にみられただけであり, 他の自・他覚的所見には何らの異常を見出せなかった。

以上の結果より, carumonam は呼吸器感染症に有用性のある薬剤と判断される。

はじめに

β -Lactam 系抗生物質はその強い抗菌活性のため, 臨床では広く用いられている。しかし最近ではこれらの薬剤に対しても耐性を示す菌種が存在し, それらによる感染症も増加の傾向にあると言われている。今回新しく開発された carumonam は β -lactamase に対して強い抵抗性を有し, グラム陰性菌に対して強い抗菌力を示すモノバクタム系抗生物質と言われている¹⁾。我々は今回, この carumonam における有効性と安全性とについての若干の臨床的検討を加えたのでここに報告する。

I. 対象ならびに方法

投与対象は昭和 59 年 9 月 7 日より同年 10 月 23 日迄に当科に入院した患者 5 名であり, いずれも呼吸器感染症であった。その内訳は, Table 1 に示し

たように, び慢性汎細気管支炎 (DPB) 2 例, 肺炎・肺化膿症・慢性気管支炎各々 1 例であった。性別は, 男性 4 名, 女性 1 名であり, 年齢は 36 歳から 78 歳迄で, 平均年齢は 55 歳であった。これらの 5 症例のうち 1 例は基礎疾患として肺癌が認められた。

投与方法は 1 日量として 2 g を 2 回に分けて点滴静注した。投与期間は 7 日から 14 日間であり, 総投与量は 14 g から 28 g であった。

臨床効果の判定は, 臨床症状, 検査成績などを総合し, 著効 (Excellent), 有効 (Good), やや有効 (Fair), 無効 (Poor) の 4 段階で区分した。

II. 成績

投与成績については Table 1 に示すように, 有効 4 例, やや有効 1 例で, 有効率は 80% (4/5) であった。以下, 各々の症例について略記する。

Table 1 Clinical results with carumonam therapy

Case No.	Patient initials	Age	Diagnosis	Underlying disease	Isolated organism	Daily dose (g×times)	Duration (days)	Clinical effect	Bacteriological effect	Side effect
1	T.S.	36	DPB	—	<i>H. influenzae</i>	1×2	14	Fair	Eradicated	(-)
2	S.H.	37	DPB	—	<i>P. fluorescens</i>	1×2	14	Good	Replaced	(-)
3	T.T.	53	Lung abscess	Lung cancer	<i>P. aeruginosa</i> <i>Streptococcus</i>	1×2	7	Good	Replaced	(-)
4	K.K.	78	Chronic bronchitis	Emphysema	<i>H. parainfluenzae</i>	1×2	14	Good	Eradicated	(-)
5	F.K.	70	Pneumonia	—	<i>P. aeruginosa</i>	1×2	14	Good	Eradicated	(-)

症例1：36歳，男性，び慢性汎細気管支炎

13歳の時より慢性副鼻腔炎を指摘されている。しばしば肺炎を繰り返していたが，昭和59年より咳嗽，喀痰著明となり，胸部異常陰影も指摘され，本院入院となった。Carumonamを1日2g投与したところ，起炎菌の*Haemophilus influenzae*の消失はみだが，自覚症状の改善は軽度にとどまり，判定はやや有効とした。

症例2：37歳，男性，び慢性汎細気管支炎

既往歴に慢性副鼻腔炎がある。昭和58年頃より咳嗽，喀痰が増強し始め，翌年からは呼吸困難も生じてきた。同年9月に本院入院となり，び慢性汎細気管支炎と診断される。

Carumonamを1日2gの割合で14日間点滴静注したところ，喀痰量の減少，血液所見の改善がみられ，自覚的所見の推移より，判定は有効とした。

症例3：53歳，男性，肺化膿症

昭和59年5月に右片麻痺にて発症し，転移性脳腫瘍の診断にて手術を受け，原発巣（肺癌）治療のため当科に転科となった患者である。原発巣，転移巣（骨・脳）に対して照射を開始したところ，骨髄抑制をきたし，肺化膿症の状態となった。1日2gの割合でcarumonamを7日間にわたって点滴静注し，胸部X線所見及び血液所見の改善をみた。判定は有効とした。

症例4：78歳，男性，慢性気管支炎

数年前より慢性気管支炎の診断を受けている患者で，昭和59年3月頃より，咳嗽増強，喀痰量の増加がみられた。胸部X線上，肺門に異常陰影が認められ，急性増悪との診断で，本院に入院となった。起炎菌は*Haemophilus parainfluenzae*と考えられ，carumonamを14日間にわたって1日2gの割合で点滴静注した。起炎菌の消失，血液所見の改善がみられ，自覚症状も少なくなったため判定は有効とした。

症例5：70歳，女性，肺炎

昭和59年6月の原爆検診に於て，血沈の亢進と胸部の異常陰影を指摘され，精査目的で本院入院となった。主症状は血痰及び膿性痰である。諸検査より悪性腫瘍は否定され，喀痰培養より*Pseudomonas aeruginosa*が検出された。10月より1日2gの割合でcarumonamを点滴静注し，胸部X線所見，自覚症状，血液所見などの改善が認められた。判定は有効とした。

III. 副作用

本剤投与による副作用をみるために本剤投与直前，

Table 2 Laboratory findings before and after carumonam treatment

Case No.	Patient initials	RBC ($\times 10^4/\text{mm}^3$)		Hb (g/dl)		Ht (%)		WBC (/mm ³)		Platelet ($\times 10^4/\text{mm}^3$)		GOT (K.U.)		GPT (K.U.)		Al-P (I.U.)		BUN (mg/dl)		Cr. (mg/dl)	
		B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
1	T.S.	496	526	14.0	14.3	43.5	46.5	4,600	3,600	28.1	24.0	16	26	7	28	74	64	12	10	0.8	0.7
2	S.H.	528	577	14.9	16.0	45.4	50.7	11,500	5,500	29.3	22.5	55	53	75	66	93	76	12	13	0.7	0.6
3	T.T.	327	364	9.7	10.6	29.3	32.6	5,000	8,600	6.1	10.5	24	27	44	29	93	89	22	21	0.7	0.5
4	K.K.	461	485	14.2	15.0	42.5	45.2	9,400	7,500	25.8	13.4	9	11	6	3	81	82	16	21	0.9	0.8
5	F.K.	419	393	12.0	11.3	37.5	34.9	4,300	4,200	21.0	21.3	16	20	13	15	154	123				

B : Before treatment, A : After treatment

及び投与終了直後に血液学的検査、腎機能検査などを施行した。又、副作用と思われる自・他覚的所見についても検討した。検索し得た検査成績のうち、赤血球数、ヘモグロビン値、ヘマトクリット値、白血球数、血小板数、GOT、GPT、Al-P、BUN、Crについての測定値をTable 2に示した。

本剤投与後の上記諸成績では、症例4に血小板数の減少がみられた。この症例は何ら処置することなく投与終了後17日目には $21.0 \times 10^4/\text{mm}^3$ と正常値に復していた。その他異常は認められず、また自・他覚的所見でも本剤の副作用と思われるものはなかった。

IV. 考 察

今回我々は上記のような5例の呼吸器感染症に

carumonamを用い、有効率80%という結果を得た。宿主にとって悪条件となる基礎疾患を有する症例が1例あり、難治性であるDPBの症例も2例あったが、それらの3症例のうち2例において有効と判定できたことは、本剤の有効性を示すものと言えよう。又、安全性についてであるが、我々の症例では、血小板の中等度減少が1例にみられただけであり、この減少と薬剤との関係は不明である。他の自・他覚的所見には何らの異常を見出せなかった。

文 献

- 1) 第33回日本化学療法学会西日本支部総会、新薬シンポジウムII, Carumonam (AMA-1080)。大阪, 1985

EFFICACY AND SAFETY OF CARUMONAM IN RESPIRATORY TRACT INFECTIONS

KAZUMASA ITASAKA, YASUYUKI YOKOSAKI, YOSHIHIRO YOKOTA,
TOSHIYA NOMURA, AKIMITSU KAMITSUNA and MICHIO YAMAKIDO

Second Department of Internal Medicine,
Hiroshima University, School of Medicine, Hiroshima

Carumonam was administered to 5 patients diagnosed as having diffuse panbronchiolitis (2 cases), pneumonia (1 case), lung abscess associated with lung cancer (1 case) and chronic bronchitis associated with emphysema. The clinical response rate was 80 %.

A moderate decrease in the number of platelets was documented for one patient. However, the relation of this abnormality to the test drug was indeterminate. There were no other abnormalities in laboratory tests nor any adverse reactions.

From these results, we conclude that carumonam is an effective and well-tolerated antibiotic for the treatment of respiratory tract infections.